

戦友の書翰(遭難後救助されマリアの病院に入院中)留守宅と宛こたも

戦友の本籍氏名

(未読)

前略八月二十日午後数隻の船田と廻りし船に於て  
 丸と云ふ一噸の以前病院船に於た船に於ては  
 運力が遅く先落し一他は二隻と佐世保に引返す  
 佐世保と一週向と送りす一は生地獄と稱し船の  
 頃々船と六千人の人間と積み甲板も通路も  
 七人半の割合だった相つす私の室も荷物も  
 所りて(甲畧)一週向後三隻と台湾に向け  
 攻撃なく無事と基隆に入港比盧約十日五日  
 (甲畧) 若は高雄より父さんと行く運路が  
 せりた(甲畧)基隆より一隻事故の爲三隻と  
 す無事入港敵潜水艇の減少を命ふものと  
 命令明衣か

びは午ばりありす。一泊後ミラヤ向けて何れ船南は入集り候。船  
 が一番船護衛衛艦は駆逐艦三隻と云ふ。細ミラヤも航海は直  
 向ウカと夜向は島と島と向。假泊する。スッカリ船が安全  
 なり。自信と得高研未終以未四日目の朝愈々ルン島が見入ると  
 日より浪高く雨り。九月三日午七時頃。一たび一番船が拍  
 漣り音と共に水煙ミラヤト「カラス」云々が早に水煙が消へると  
 更に船が沈むはあり。せん相惜噴火。飛行機は未す。駆逐艦が  
 投下する爆雷の音。各船より掃砲の音。舟撃、投擲の音と船田  
 はバラバラに進み。其の向候。船も二隻。急常と云は。一  
 顔色なるとの一呼向。後ゆう大ス夫たろうと朝愈と取りに行つたり  
 船室に這入つたり。始め噴火。潜望鏡の雷跡を々々うけた。ミ  
 声と云は。中まは甲板船首ミラヤと云は。ズンズンと云は。遠くミラヤ  
 と云は。船橋は吹飛ぶ。木片はバラバラと飛散して何とも云はぬ  
 夫早よりゴッーと云ふ音と共に船は沈み始めます。船首の一番



び余終ルソノ島と止ツル海上に思ます朝々時頃船田、他の輸送  
 船が雷撃と交りぬれも緊張ありありあり一ノ時過き一大衝動と  
 交りマント云小岡の船は傾斜 沈み始めきりて 濡れ艦の魚雷と  
 交りテウツ一を 扱は直ちに戦交り 〇〇〇と 〇〇〇と 〇〇〇と  
 〇〇〇時 甲一板に居るすも 陸分探りきりが見當ります  
 と交り海中一に飛ひ込み 数時間後救助せぬまゝに 〇〇〇は  
 救助せぬまゝに 〇〇〇は 〇〇〇と 〇〇〇と 〇〇〇と 〇〇〇と

10-14





現認護國軍

籍地 [REDACTED]

任所 [REDACTED]

現任官等 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

一 陸軍步兵 [REDACTED]

現認證明書

本籍地 [REDACTED]

現住所本籍地=同一

氏名 [REDACTED] 年 [REDACTED] 月 [REDACTED] 日生

所屬部隊 水百五師團司令部付

官等級 陸軍上等兵

徵集役種 昭和三年徵集 步兵

死亡日期 昭和九年九月廿一日

死亡場所 比叻之東北端、海中

死亡原因 戰死

死章由 及遺孀 齊病三月

現認事 昭和九年九月廿一日午前、敵艦襲來、攻撃  
7、安ヶ渡、沈没、(船名之不明)

遺骨の有無 無

遺族現住所 遺孀 [REDACTED]

右に遺無 長男 [REDACTED] 三男 [REDACTED]

現認官等級 陸軍上等兵

所屬部隊 水百五師團司令部付

現住所 [REDACTED]

昭和五年 五月二十四日

12-10

死事實證明書

本籍地

所屬部隊  
(通稱)

飛行第十五戰隊  
(成第八三五部隊)

昭和

年徵集

中尉

在之者昭和十九年九月二十日  
ニ於テ戰死シタルコトヲ證明ス

昭和二十一年十二月十八日

調製官

元飛行第十五戰隊長

3-10



現認（死亡）証明書

昭和 年 月 日

地方世話部

52-10

所屬部隊 固有姓名	現役 兵	死亡年月日時	死亡區分	發(受)病(傷)年月日	死亡時	の状況	年	月	日	時	分	死亡場所	傷病名	准士官以上 在官年月日	遺留品	遺骨	の有無	
							職	役	年	月	日	時	分	死亡場所	傷病名	准士官以上 在官年月日	遺留品	遺骨
通稱	兵	昭和19年9月22日午後	戦死	昭和 年 月 日			三ノ上ノ山ノ向ノ南ノ山ノ麓ノ所ニ於テ 從事中敵機ノ機銃火撃ニ依リ 甲種之口ヲテテ死ス											

右證明候也

昭和 23 年 5 月 12 日

所屬部隊  
現任所  
官等級氏名印

地方世話部長

殿

籍地	[Redacted]				
所属部隊	輝野自動車隊				
年(享年)	役	種	兵	階	氏名
				曹長	[Redacted]
守	任所 本籍二同心				
籍	氏名 父 [Redacted]				
死亡年月日	昭和22年9月22日	死亡場所	野野自動車隊		
死亡原因	爆死				
死亡場所	曹長				
死亡原因	昭和22年9月22日午前時の空襲に、防空壕に入られしむ約5尺位の所に落下せる爆弾の爲め壕内にて歎死せられたり				

右の通り相違なきことを証明する。

昭和22年5月4日

本籍地 [Redacted]

(現任所) [Redacted]

元所属部隊 輝野自動車隊

階級氏名印 陸軍伍長 [Redacted]

1947.7.10  
臨時召集  
比島 敬三

19-10



戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所屬部隊名(通稱號)

威八九六部隊

二、徵集年次

大正四年 後補 務備 兵種 陸行兵

三、官等(死歿前)

中尉(死歿後)

一、氏名

[Redacted] 年 月 日生

二、死歿場所

此島 比多港外

三、死亡區分(事由)

前線 砲撃 被弾 戦死

四、死歿年月日時間

昭和四年九月

五、死歿者本籍地(留守府管)

[Redacted]

六、遺骨遺品の有無、及内地運送方法

有 運送

昭和四年 七月 十八日

元所屬部隊

現住所

元官等級

氏名印

(註) 死亡事由、場所ハナルベキヲワシク特ニ修職後ノ死亡ハ明細ニ、生死不明ニナラザルハソノ證據ヲワシク知ラセドシ

宛先

地方世話部認定係



状況不明者の資料届

本籍地

所属部隊固有名称

歩兵第六六联隊

通称号

基第二八〇ニ部隊

上等兵

昭和十九年九月廿五日飛行機の爆撃により「ケウ」兵站病院に於て戦死す

基第二八〇ニ部隊







